

令和4年度 研究開発学校フォーラム

【研究開発課題】

幼児の発達と学びの連続性を踏まえた
幼稚園の教育課程（3歳児～5歳児）の編成及び
保育の実際とその評価の在り方についての研究開発

お茶の水女子大学附属幼稚園



お茶の水女子大学附属幼稚園
Ochanomizu University Kindergarten



平成30年度 から 令和4年度

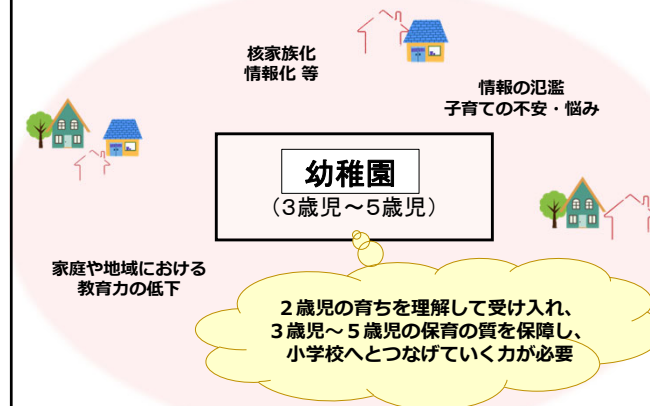
2018年～2022年 （5年間）

幼児の発達と学びの連続性を踏まえた
幼稚園の教育課程（3歳児～5歳児）の編成及び
保育の実際とその評価の在り方についての研究開発



お茶の水女子大学附属幼稚園
Ochanomizu University Kindergarten

▶ 研究の目的と仮説



▶ 研究の目的と仮説

子育て環境の変化
 核家族化・少子化
 子育てと仕事の両立（職場環境）
 子育て情報の氾濫

家庭や地域における
教育力の低下

子育ての不安・悩み

▶ 研究の目的と仮説

子育て環境の変化
 核家族化・少子化

**幼稚園等施設の保育者も
 保育に悩み・戸惑う**

幼稚園
 (3歳児～5歳児)

不安 悩み
 子育ての不安・悩み

▶ 研究の目的と仮説

核家族化
 情報化等

情報の氾濫
 子育ての不安・悩み

家庭や地域における
 教育力の低下

幼稚園
 (3歳児～5歳児)

2歳児の育ちを理解して受け入れ、
 3歳児～5歳児の保育の質を保障し、
 小学校へとつなげていく力が必要

▶ 研究の目的と仮説

・ 幼稚園入園前からの接続と
 小学校への接続に着目した
 教育課程を編成する

2歳児

入園接続期

教育課程
 (3歳児～5歳児)
 幼稚園

小学校

幼小接続期

© 2017 徳島大学 徳島大学附属幼稚園
 Tokushima University Kindergarten

▶ 研究の目的と仮説

- ・ 幼稚園入園前からの接続と小学校への接続に着目した教育課程を編成する
- ・ 社会に開かれた教育課程の編成を目指す



▶ 研究の経緯

- 1年次 2歳児の育ち、保育の現状把握
教育課程試案の編成
- 2年次 2歳児の生活及び子育ての実態調査
グランドデザインの見直し及び教育課程試案の修正
家庭との対話
保育記録の改良
- 名目指定
家庭との対話
「育育手帖その1」の発行・配布
- 3年次 教育課程試案の再修正
入園接続期カリキュラムの作成
幼小接続期カリキュラムの作成
家庭との対話
保育の評価の在り方について検討
大学と3園とが協同し、保育研修及び子育て支援事業として「こどもフォーラム」を開催
- 4年次 教育課程に基づいた保育実践及び教育課程の修正
接続期カリキュラムの修正
地域とのつながり
研究成果の発表

▶ 研究の経緯

- 1年次 2歳児の育ち、保育の現状把握
教育課程試案の編成

2歳児の育ちとは…

- ・ 自我の育つ時期
- ・ 「自分」が尊重されることで世界が広がっていく

入園の頃の保育

- ・ 2歳児とのつながりを考え、園生活をゆるやかにスタート
- ・ 分散登園、行事の見直し等



▶ 研究の経緯

- 2年次 2歳児の生活及び子育ての実態調査
グランドデザインの見直し及び教育課程試案の修正
家庭との対話
保育記録の改良

「子どもの生活及び保護者の子育てに関する意識と実態調査」

- ・ 時期：2019年10月
- ・ 対象：文京区内の乳幼児施設3歳児の保護者234名
- ・ 内容：入園先を決めたとき/入園・進級前/入園・進級当初/現在の4つの時期
子どもの生活時間、保護者の子育ての悩みや楽しさ、相談相手、園や環境への要望など、全52項目
選択式もしくは自由記述形式で回答
- ・ 結果：入園時に育児不安が強い人は、周囲に相談することが難しい傾向にある
入園・進級後、子育て意識に変化があった人は、育児不安が大きい傾向にある

2歳⇒3歳 物理的・精神的に段差が大



研究の経緯

1年次 2歳児の育ち、保育の現状把握
教育課程試案の編成

2年次 2歳児の生活及び子育ての
グランドデザインの見直し
家庭との対話
保育記録の改良

名目指定
家庭との対話
「育育手帖その1」の発行・配布

3年次 幼小接続期
家庭との対話
保育の評価の
大学と3園と

4年次 教育課程
接続期
地域との
研究発表

家庭との対話 【ホットモタイム】



研究の経緯

1年次 2歳児の育ち、保育の現状把握
教育課程試案の編成

「育育手帖」の 発行・配布

名目指定
家庭との対話
「育育手帖その1」の発行・配布

3年次 幼小接続期カリキュラム
家庭との対話
保育の評価の在り方について
大学と3園とが協同し、

4年次 教育課程に基づ
接続期カリキュ
地域とのつながり
研究成果の発表




研究の経緯


1年次 2歳児の育ち、保育の現状把握
教育課程試案の編成

2年次 2歳児の生活及び子育ての実態調査
グランドデザインの見直し及び教育課程試案の修正
家庭との対話
保育記録の改良

保護者の子育て意識調査アンケート
ゆるやかな保育の実践・ホットモタイム など

子育て中の保護者の傾向
子どもの自立を急ぐ
子育ての正解を求める など

園と保護者とのずれ



グランドデザインの見直し

【従来の教育目標】

- ・からだがじょうぶで、元気がよい。
- ・自分のことは自分です。
- ・友だちと仲よく遊ぶ。
- ・ものごとにいそいそとした興味をもつ。
- ・思ったことははっきり話し、人の話をよく聞く。
- ・創意工夫したことを楽しんで表現する。

・具体的で分かりやすい
・これらの目標が到達項目、評価項目として捉えられかねないのでは？
・「目標」という表現はどうか？

教育目標を「子どもへの願い」へ

【新しい教育目標】

子どもへの願い (教育目標)

- ・自分のことを大切にする
- ・周りの人を大切にする
- ・環境を大切にする

▶ 「子どもへの願い」の意義

子どもへの願い

・自分のことを大切にすること ・周りの人を大切にすること ・環境を大切にすること

- * 「自分のことを大切にすること」ためには、「自分は大切にされている」と感じられることが前提
- * 大切にされているという感覚を持つことが、自分だけではなく、「周りの人も大切、みんなが暮らす環境も大切」という気持ちにつながっていく

これら3つの願いは、互いにつながり合っている

▶ 「子どもへの願い」の意義

「自分のことを大切にすること」

・自分のことを大切にすること

園生活でありのままを受けとめられ
「自分は大切にされている」
感じられること

▶ 「子どもへの願い」の意義

「自分のことを大切にすること」

園生活でありのままを受けとめられ

「自分は大切にされている」感じられること

周りの大人の関わりを通して
大切にされているという感覚を持つこと

自分だけではなく、

「周りの人も大切、
みんなが暮らす環境も大切」

という気持ちに つながっていく

▶ 「子どもへの願い」の意義

これら3つの願いは、

自分のことを大切にすること

周りの人を大切にすること

環境を大切にすること

互いにつながり合っている

▶ 「子どもへの願い」の意義

子どもへの願い

- ・自分のことを大切に
- ・周りの人を大切に
- ・環境を大切に

* 「自分のことを大切に」ためには、「自分は大切にされている」と感じられることが前提

* 大切にされているという感覚を持つことが、自分だけではなく、「周りの人も大切、みんなが暮らす環境も大切」という気持ちにつながっていく

これら3つの願いは、互いにつながり合っている

▶ 「子どもへの願い」の意義

子どもへの願い

もっと説明が欲しい

抽象的

保護者

子どもを中心に捉えていて温かさを感じる

保護者

大切にされているという感覚を持つことが、自分だけではなく、「周りの人も大切、みんなが暮らす環境も大切」という気持ちにつながっていく

▶ 「子どもへの願い」の意義

子どもへの願い

もっと説明が欲しい

抽象的

保護者

子どもを中心に捉えていて温かさを感じる

保護者

大切にされているという感覚を持つことが、自分だけではなく、「周りの人も大切、みんなが暮らす環境も大切」という気持ちにつながっていく

保護者との対話を深め、保育について共に探究していく

▶ 教育課程

2022年(令和4)年度 教育課程

【子どもへの願い】 自分自身を大切に、周りの人を大切に、環境を大切に

お茶の水女子大学附属幼稚園

	3歳児	4歳児	5歳児
自己意識	安心して自分をだす <ul style="list-style-type: none"> ・からだが感じたことを、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する 	自分と出会う <ul style="list-style-type: none"> ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する 	自分らしさを知り、自分らしくある <ul style="list-style-type: none"> ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する
人間性	一緒にいる心地よさを感じる <ul style="list-style-type: none"> ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する 	違いに気づく <ul style="list-style-type: none"> ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する 	多様であることの豊かさを知る <ul style="list-style-type: none"> ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する
社会性	身の回りの環境と出会う <ul style="list-style-type: none"> ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する 	身の回りの環境に心が動く <ul style="list-style-type: none"> ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する 	身の回りの環境を考える <ul style="list-style-type: none"> ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する ・あつちのあつちで、あつちのあつちで表現する

教育課程

2022年(令和4)年度 教育課程

お茶の水女子大学附属幼稚園

【子どもへの願い】 **自分のことを大切に、周りの人を大切に、環境を大切に**
 「子ども一人ひとりが、幼稚園生活の中で、自分の姿を受け取られ、『自分は大切にされている』と感じられることを、職員がより願っています。こうした人の関わりを通して、子ども一人ひとりに、自分だけでなく『周りの人大切、環境大切』という気持ちが芽生えていくと考えます。子ども自身が、自分自身と関わり、周りの人と関わり、身の周りのもの、ことに関わりながら、主体的に生活を楽しみたいと考え、自分たちの関わり『人との関わり』『もの・こととの関わり』を軸に園庭活動課程を構成しました。

	3歳児	4歳児	5歳児
園庭活動課程	安心して自分をたす ・からだを動かすこと、もののまわりを歩く ・安心して走り、跳ねたり、投げたりする ・両手両足の力、両足で歩くことができるようになる ・好きなことを自分で、繰り返し遊ぶ	自分と出会う ・挨拶（言葉・顔・手・心）を大切に覚える ・からだの力の強さを学ぶ ・自分の名前・年齢、服装などに自分の名前を覚える ・好きなことと比べて、夢に近づける ・やりたいことを実践したり、じっくり取り組む ・人並み程度、イメージで遊ぶことができる	自分らしさを知り、自分らしくある ・幼稚園生活の楽しさを、自分の心で感じる ・自分の得意なことを、やりこめる ・自分の得意なことを、友達に教える ・好きなことと比べて、夢に近づける ・やりたいことを実践したり、じっくり取り組む ・人並み程度、イメージで遊ぶことができる
人との関わり	一緒にいる心地よさを感ずる ・仲間・友達と遊ぶ、遊びの中で楽しむ ・仲間と遊ぶ中で、自分の役割を覚える ・仲間と遊ぶ中で、楽しむ ・仲間と遊ぶ中で、楽しむ ・仲間と遊ぶ中で、楽しむ	違いに気づく ・自分と違う人、物、場所、ことを知り、受け入れる ・自分の得意なことを、友達に教える ・自分の得意なことを、友達に教える ・自分の得意なことを、友達に教える	多様であることの豊かさを知る ・自分の得意なことを、友達に教える ・自分の得意なことを、友達に教える ・自分の得意なことを、友達に教える
身の回りの環境	身の回りの環境と出会う ・幼稚園生活の中で、身の回りの環境と出会う ・身の回りの環境と出会う ・身の回りの環境と出会う	身の回りの環境に心が動く ・身の回りの環境と出会う ・身の回りの環境と出会う ・身の回りの環境と出会う	身の回りの環境を考える ・身の回りの環境と出会う ・身の回りの環境と出会う ・身の回りの環境と出会う

わかりやすさを踏まえて、学年ごとに表す

教育課程

2022年(令和4)年度 教育課程

お茶の水女子大学附属幼稚園

【子どもへの願い】 **自分のことを大切に、周りの人を大切に、環境を大切に**
 「子ども一人ひとりが、幼稚園生活の中で、自分の姿を受け取られ、『自分は大切にされている』と感じられることを、職員がより願っています。こうした人の関わりを通して、子ども一人ひとりに、自分だけでなく『周りの人大切、環境大切』という気持ちが芽生えていくと考えます。子ども自身が、自分自身と関わり、周りの人と関わり、身の周りのもの、ことに関わりながら、主体的に生活を楽しみたいと考え、自分たちの関わり『人との関わり』『もの・こととの関わり』を軸に園庭活動課程を構成しました。

	3歳児	4歳児	5歳児
園庭活動課程	安心して自分をたす ・からだを動かすこと、もののまわりを歩く ・安心して走り、跳ねたり、投げたりする ・両手両足の力、両足で歩くことができるようになる ・好きなことを自分で、繰り返し遊ぶ	自分と出会う ・挨拶（言葉・顔・手・心）を大切に覚える ・からだの力の強さを学ぶ ・自分の名前・年齢、服装などに自分の名前を覚える ・好きなことと比べて、夢に近づける ・やりたいことを実践したり、じっくり取り組む ・人並み程度、イメージで遊ぶことができる	自分らしさを知り、自分らしくある ・幼稚園生活の楽しさを、自分の心で感じる ・自分の得意なことを、やりこめる ・自分の得意なことを、友達に教える ・好きなことと比べて、夢に近づける ・やりたいことを実践したり、じっくり取り組む ・人並み程度、イメージで遊ぶことができる
人との関わり	一緒にいる心地よさを感ずる ・仲間・友達と遊ぶ、遊びの中で楽しむ ・仲間と遊ぶ中で、自分の役割を覚える ・仲間と遊ぶ中で、楽しむ ・仲間と遊ぶ中で、楽しむ	違いに気づく ・自分と違う人、物、場所、ことを知り、受け入れる ・自分の得意なことを、友達に教える ・自分の得意なことを、友達に教える	多様であることの豊かさを知る ・自分の得意なことを、友達に教える ・自分の得意なことを、友達に教える
身の回りの環境	身の回りの環境と出会う ・幼稚園生活の中で、身の回りの環境と出会う ・身の回りの環境と出会う	身の回りの環境に心が動く ・身の回りの環境と出会う ・身の回りの環境と出会う	身の回りの環境を考える ・身の回りの環境と出会う ・身の回りの環境と出会う

**表し方を変えたことで
学年間の段差の意識化・より丁寧な学年間の接続**

教育課程

発達と学びの連続性を踏まえた教育課程
⇒入園前からの接続と小学校への接続に着目

お茶の水女子大学附属幼稚園

【子どもへの願い】 **自分のことを大切に、周りの人を大切に、環境を大切に**
 「子ども一人ひとりが、幼稚園生活の中で、自分の姿を受け取られ、『自分は大切にされている』と感じられることを、職員がより願っています。こうした人の関わりを通して、子ども一人ひとりに、自分だけでなく『周りの人大切、環境大切』という気持ちが芽生えていくと考えます。子ども自身が、自分自身と関わり、周りの人と関わり、身の周りのもの、ことに関わりながら、主体的に生活を楽しみたいと考え、自分たちの関わり『人との関わり』『もの・こととの関わり』を軸に園庭活動課程を構成しました。

	3歳児	4歳児	5歳児
園庭活動課程	安心して自分をたす ・からだを動かすこと、もののまわりを歩く ・安心して走り、跳ねたり、投げたりする ・両手両足の力、両足で歩くことができるようになる ・好きなことを自分で、繰り返し遊ぶ	自分と出会う ・挨拶（言葉・顔・手・心）を大切に覚える ・からだの力の強さを学ぶ ・自分の名前・年齢、服装などに自分の名前を覚える ・好きなことと比べて、夢に近づける ・やりたいことを実践したり、じっくり取り組む ・人並み程度、イメージで遊ぶことができる	自分らしさを知り、自分らしくある ・幼稚園生活の楽しさを、自分の心で感じる ・自分の得意なことを、やりこめる ・自分の得意なことを、友達に教える ・好きなことと比べて、夢に近づける ・やりたいことを実践したり、じっくり取り組む ・人並み程度、イメージで遊ぶことができる
人との関わり	一緒にいる心地よさを感ずる ・仲間・友達と遊ぶ、遊びの中で楽しむ ・仲間と遊ぶ中で、自分の役割を覚える ・仲間と遊ぶ中で、楽しむ ・仲間と遊ぶ中で、楽しむ	違いに気づく ・自分と違う人、物、場所、ことを知り、受け入れる ・自分の得意なことを、友達に教える ・自分の得意なことを、友達に教える	多様であることの豊かさを知る ・自分の得意なことを、友達に教える ・自分の得意なことを、友達に教える
身の回りの環境	身の回りの環境と出会う ・幼稚園生活の中で、身の回りの環境と出会う ・身の回りの環境と出会う	身の回りの環境に心が動く ・身の回りの環境と出会う ・身の回りの環境と出会う	身の回りの環境を考える ・身の回りの環境と出会う ・身の回りの環境と出会う

入園接続期 **幼小接続期**

教育課程

発達と学びの連続性を踏まえた教育課程
⇒入園前からの接続と小学校への接続に着目

お茶の水女子大学附属幼稚園

【子どもへの願い】 **自分のことを大切に、周りの人を大切に、環境を大切に**
 「子ども一人ひとりが、幼稚園生活の中で、自分の姿を受け取られ、『自分は大切にされている』と感じられることを、職員がより願っています。こうした人の関わりを通して、子ども一人ひとりに、自分だけでなく『周りの人大切、環境大切』という気持ちが芽生えていくと考えます。子ども自身が、自分自身と関わり、周りの人と関わり、身の周りのもの、ことに関わりながら、主体的に生活を楽しみたいと考え、自分たちの関わり『人との関わり』『もの・こととの関わり』を軸に園庭活動課程を構成しました。

	3歳児	4歳児	5歳児
園庭活動課程	安心して自分をたす ・からだを動かすこと、もののまわりを歩く ・安心して走り、跳ねたり、投げたりする ・両手両足の力、両足で歩くことができるようになる ・好きなことを自分で、繰り返し遊ぶ	自分と出会う ・挨拶（言葉・顔・手・心）を大切に覚える ・からだの力の強さを学ぶ ・自分の名前・年齢、服装などに自分の名前を覚える ・好きなことと比べて、夢に近づける ・やりたいことを実践したり、じっくり取り組む ・人並み程度、イメージで遊ぶことができる	自分らしさを知り、自分らしくある ・幼稚園生活の楽しさを、自分の心で感じる ・自分の得意なことを、やりこめる ・自分の得意なことを、友達に教える ・好きなことと比べて、夢に近づける ・やりたいことを実践したり、じっくり取り組む ・人並み程度、イメージで遊ぶことができる
人との関わり	一緒にいる心地よさを感ずる ・仲間・友達と遊ぶ、遊びの中で楽しむ ・仲間と遊ぶ中で、自分の役割を覚える ・仲間と遊ぶ中で、楽しむ ・仲間と遊ぶ中で、楽しむ	違いに気づく ・自分と違う人、物、場所、ことを知り、受け入れる ・自分の得意なことを、友達に教える ・自分の得意なことを、友達に教える	多様であることの豊かさを知る ・自分の得意なことを、友達に教える ・自分の得意なことを、友達に教える
身の回りの環境	身の回りの環境と出会う ・幼稚園生活の中で、身の回りの環境と出会う ・身の回りの環境と出会う	身の回りの環境に心が動く ・身の回りの環境と出会う ・身の回りの環境と出会う	身の回りの環境を考える ・身の回りの環境と出会う ・身の回りの環境と出会う

入園接続期 **幼小接続期**

カリキュラムの作成

入園接続期 **幼小接続期**
カリキュラム **カリキュラム**

▶ 幼小接続期カリキュラム

入園前	1歳児	2歳児	3歳児	小学校

人との関係や周囲の環境が大きく変化することに伴い、子どもたちの戸惑い・不安・期待・緊張などを、幼小の教師が丁寧に受けとめながら、教師や友達との豊かな関わりを基盤に、主体的に学ぶ姿勢を育む時期。(H13～15・H17～19研究開発より)

【子どもへの願い】
 自分を大切にすること : 自分に自信をもち、自分らしくある
 周りの人を大切にすること : 違いや多様であることを認めあいながら生活する
 環境を大切にすること : 仲間とともに丁寧に生活をつくりだす

【キーワード】
 なめらかな接続・適度な段差

【子どもの育ちを支える教師のかかわり】

～子どもとのかかわり～
 ・互いの思いや考えを伝え、相手の思いに耳を傾ける関わりが生まれるように
 ・違いを感じながらも、仲間として互いに認め合い、関わり合えるように
 ・仲間としての関わりの中で、その人らしさを充分に発揮できるように
 ・子どもたちがイメージを重ね、遊びや生活を主体的に進めることができるように

～もの、こと(環境)とのかかわり～
 ・みんなが楽しい、体験が共有できる場
 ・充実した活動のできる時間・空間
 ・今まで経験・体験とのつながり
 ・遊びと場、場ともの関係

～保護者とのかかわり～
 ・もの、人、こととの関わりの中で子どもの育ちを共有する
 ・子どもの育ちをみんなで見守り、認め合う信頼関係を構築する
 ・子どもの育ちを長いスパンで捉える見通しを持つようにする

～小学校教師とのかかわり～
 ・園生活での一人ひとりの興味関心、経験、育ちの過程を共有する

***身体性に意識をおき、子どもたちの関係を支える**

- 子どもたちが自ら動き出すのを待ったり、任せたりしながら、子どもたちが関わり合う姿を丁寧に捉えていく。
- 子どもたちが自分たちで実現しようとしていることを受けとめ、仲間としてともに考え、実現していく。

…言葉を補う 選択肢を広げる 投げかける 待つ 任せる 後押しする 仲間になる 場・遊びを支える… など

▶ 幼小接続期カリキュラム

入園前	1歳児	2歳児	3歳児	小学校

人との関係や周囲の環境が大きく変化することに伴い、子どもたちの戸惑い・不安・期待・緊張などを、幼小の教師が丁寧に受けとめながら、教師や友達との豊かな関わりを基盤に、主体的に学ぶ姿勢を育む時期。(H13～15・H17～19研究開発より)

【子どもへの願い】
 自分を大切にすること : 自分に自信をもち、自分らしくある
 周りの人を大切にすること : 違いや多様であることを認めあいながら生活する
 環境を大切にすること : 仲間とともに丁寧に生活をつくりだす

【キーワード】
 なめらかな接続・適度な段差

【子どもの育ちを支える教師のかかわり】

～子どもとのかかわり～
 ・互いの思いや考えを伝え、相手の思いに耳を傾ける関わりが生まれるように
 ・違いを感じながらも、仲間として互いに認め合い、関わり合えるように
 ・仲間としての関わりの中で、その人らしさを充分に発揮できるように
 ・子どもたちがイメージを重ね、遊びや生活を主体的に進めることができるように

～もの、こと(環境)とのかかわり～
 ・みんなが楽しい、体験が共有できる場
 ・充実した活動のできる時間・空間
 ・今まで経験・体験とのつながり
 ・遊びと場、場ともの関係

～保護者とのかかわり～
 ・もの、人、こととの関わりの中で子どもの育ちを共有する
 ・子どもの育ちをみんなで見守り、認め合う信頼関係を構築する
 ・子どもの育ちを長いスパンで捉える見通しを持つようにする

～小学校教師とのかかわり～
 ・園生活での一人ひとりの興味関心、経験、育ちの過程を共有する

***身体性に意識をおき、子どもたちの関係を支える**

- 子どもたちが自ら動き出すのを待ったり、任せたりしながら、子どもたちが関わり合う姿を丁寧に捉えていく。
- 子どもたちが自分たちで実現しようとしていることを受けとめ、仲間としてともに考え、実現していく。

…言葉を補う 選択肢を広げる 投げかける 待つ 任せる 後押しする 仲間になる 場・遊びを支える… など

▶ 保育の評価の在り方

◎日の省察
 → 学年ごとに、対話型マップ記録を作成
 ・保育者間で子どもの姿や思いを語り合い、振り返る

◎週の省察
 → 「前週の子どもの姿」を踏まえて進察を計画
 ・「前週の子どもの姿」のドキュメンテーションを保護者と共有
 付箋紙を用いて、対話にも活用

◎期の省察
 → 学期ごとに、「遊びと生活の履歴」をまとめ、保育を省察するとともに、次学期・次年度の計画へ活かす

◎年の省察
 → 子どもの育ちについて語り合い、次年度に活かす
 ・教育課程の修正

～本園の保育の評価の在り方～
 日、週、期、年と、子どもの育ちについて、対話を大切にし、省察を重ね、次のよりよい保育に活かしていく営み

※今年度は、地域との研究会「保育を語り合う会」実施→評価につなげる

◎ 日の省察

→ 学年ごとに、対話型マップ記録を作成
 ・保育者間で子どもの姿や思いを語り合い、振り返る

2010年 月 日 () (〇) 歳児 (〇) 歳児

2010年11月2日
 1. 10月31日
 2. 11月1日
 3. 11月2日
 4. 11月3日
 5. 11月4日
 6. 11月5日
 7. 11月6日
 8. 11月7日
 9. 11月8日
 10. 11月9日
 11. 11月10日
 12. 11月11日
 13. 11月12日
 14. 11月13日
 15. 11月14日
 16. 11月15日
 17. 11月16日
 18. 11月17日
 19. 11月18日
 20. 11月19日
 21. 11月20日
 22. 11月21日
 23. 11月22日
 24. 11月23日
 25. 11月24日
 26. 11月25日
 27. 11月26日
 28. 11月27日
 29. 11月28日
 30. 11月29日
 31. 11月30日

◎ 日の省察

→ 学年ごとに、対話型マップ記録を作成
・保育者間で子どもの姿や思いを語り合い、振り返る

◎ 週の省察

→ ・「前週の子どもの姿」を踏まえて週案を計画
・「前週の子どもの姿」のドキュメンテーションを保護者と共有 付箋紙を用いて、対話にも活用

◎ 期の省察

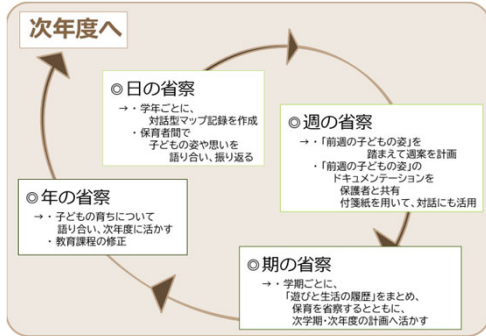
→ 学期ごとに、「遊びと生活の履歴」をまとめ、保育を省察するとともに、次学期・次年度の計画へ活かす

◎ 年の省察

→ 子どもの育ちについて語り合い、次年度に活かす
・教育課程の修正

	3歳児	4歳児	5歳児
【子どもの育ち】	<p>安心して自分を出す</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 自分や自分の思いを表現する 2. 自分や自分の思いを表現する 3. 自分や自分の思いを表現する 	<p>自分と出会う</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 自分や自分の思いを表現する 2. 自分や自分の思いを表現する 3. 自分や自分の思いを表現する 	<p>自分らしさを知り、自分らしくある</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 自分や自分の思いを表現する 2. 自分や自分の思いを表現する 3. 自分や自分の思いを表現する
【子どもの育ち】	<p>一緒にいる心地よさを感じる</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 自分や自分の思いを表現する 2. 自分や自分の思いを表現する 3. 自分や自分の思いを表現する 	<p>違いに気づく</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 自分や自分の思いを表現する 2. 自分や自分の思いを表現する 3. 自分や自分の思いを表現する 	<p>多様であることの豊かさを知る</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 自分や自分の思いを表現する 2. 自分や自分の思いを表現する 3. 自分や自分の思いを表現する
【子どもの育ち】	<p>身の回りの環境と出会う</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 自分や自分の思いを表現する 2. 自分や自分の思いを表現する 3. 自分や自分の思いを表現する 	<p>身の回りの環境に心が動く</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 自分や自分の思いを表現する 2. 自分や自分の思いを表現する 3. 自分や自分の思いを表現する 	<p>身の回りの環境を考える</p> <ul style="list-style-type: none"> 1. 自分や自分の思いを表現する 2. 自分や自分の思いを表現する 3. 自分や自分の思いを表現する

➤ 保育の評価の在り方



～本園の保育の評価の在り方～
日、週、期、年と、子どもの育ちについて、対話を大切にし、省察を重ね、次のよりよい保育に活かしていく営み

※今年度は、地域との研究会「保育を語り合う会」実施→評価につなげる

➤ 3歳児～5歳児の保育の実際

【白雪姫の劇】の事例



3歳児 ● 桃色 4歳児 ● 黄色 5歳児 ● 青色
☐ 子どもたちの姿
☒ 教師の思い * 教育課程の内容

3歳児～5歳児実践記録作成の過程



* 子どもの姿を記入

1. 白雪姫の劇について、子どもたちの様子や全体の流れなどを3学年の教諭で集い共有する。
2. 日々の記録写真より白雪姫の劇に関するものを選び印刷。学年別に紙に貼付。
3. 記録や対話型マップ記録を手がかりに子どもの姿を書き記す。

* 教師の思いと教育課程の内容を記入

1. 写真や子どもの姿の記述から、そのときの教師の思いを整理して書き込む。
2. 教育課程の内容と照らし考察。

➤ 白雪姫の劇の事例

誕生会で、教師たちが『白雪姫』の音楽劇を演じたことが始まり



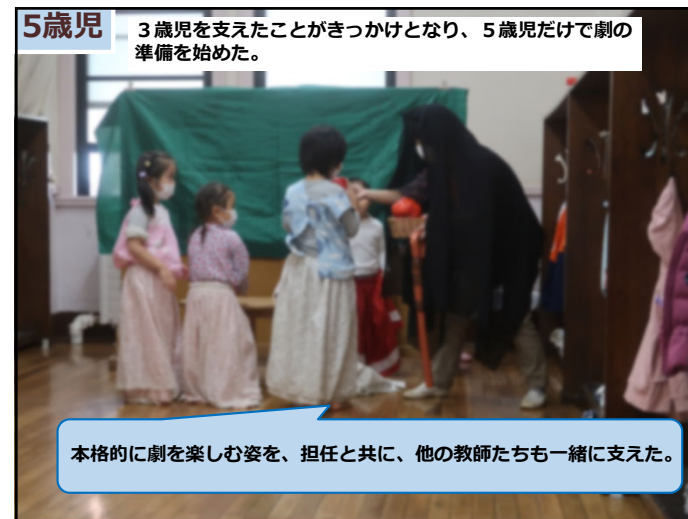
白雪姫は、4歳児担任がドレスをはいて演じた

4歳児

「白雪姫になりたい」と、担任と5歳児にドレスを借りに行き、ごっこ遊びを始めた



劇というより、白雪姫になってみることを楽しめるように





▶ 「白雪姫の劇」の事例の考察

「関わり」「接続」の視点を重視した教育課程の編成

↓

【子ども】
学年はもとより、学年を越えた関わり合いも豊かになった

【教師】
子どもたちの姿や関わり合い、出来事を共有していこうとする連携が強まった

学年の育ちを踏まえつつ、一人ひとりの育ちをより丁寧に捉えようとする認識が高まった

▶ 「白雪姫の劇」の事例の考察

▶ 「白雪姫の劇」の事例の考察

- ・心地よさを重ねていく 3 歳児
- ・自分らしく動き出そうとする 4 歳児
- ・自分らしさを発揮していく 5 歳児

白雪姫という「こと」に互いに関わり合う

それぞれの育ちを捉えて支える教師の姿がある

「関わり」「接続」の視点を重視した教育課程の編成



【子ども】

- ・学年はもとより、学年を越えた関わり合いが豊かになり、育ち合う姿が見られる

【教師】

- ・子どもたちの姿や関わり合い、出来事を共有していこうとする連携が強まった
- ・学年の育ちを踏まえつつ、一人ひとりの育ちをより丁寧に捉えようとする認識が高まった

▶ 研究開発の成果

【幼児への効果】

- ・入園接続期、子どもも保護者も、安心して過ごす
- ・学年はもとより、学年を越えた関わりが豊かになる
- ・幼小接続期、自分に自信をもち、周りの人や仲間との生活や環境を大切にしようとする

3歳児	4歳児	5歳児
安心して自覚する 自分や他人の感情や意図を察知し、安心して過ごすことができるようになる。	自分らしさを発現し、自分らしくある 自分や他人の感情や意図を察知し、自分らしく行動することができるようになる。	自分らしさを発現し、自分らしくある 自分や他人の感情や意図を察知し、自分らしく行動することができるようになる。
一緒にいるのよさを体感する 仲間と一緒に遊ぶ楽しさや、協力して遊ぶ楽しさを体感することができるようになる。	思いに気づく 自分や他人の感情や意図を察知し、思いに気づくことができるようになる。	勇んで異ごころの関わりを知覚する 自分や他人の感情や意図を察知し、勇んで異ごころの関わりを知覚することができるようになる。
身の周りの環境とつながる 身の周りの環境とつながることを楽しむことができるようになる。	身の周りの環境に気づく 身の周りの環境に気づくことができるようになる。	身の周りの環境を享受する 身の周りの環境を享受することができるようになる。

▶ 研究開発の成果

【幼児への効果】

- ・入園接続期、子どもも保護者も、安心して過ごす
- ・学年はもとより、学年を越えた関わりが豊かになる
- ・幼小接続期、自分に自信をもち、周りの人や仲間との生活や環境を大切にしようとする

▶ 研究開発の成果

【地域への効果】

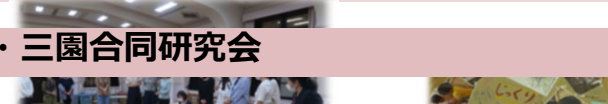
- ・三園合同研究会
- ・保育を語り合う会（地域に開いた保育研究会）
- ・育育手帖（子育てに関するリーフレット）の発行・配布



▶ 研究開発の成果

【地域への効果】

- ・三園合同研究会
- ・保育を語り合う会
（地域に開いた保育研究会）
- ・育育手帖の発行・配布
（子育てに関するリーフレット）



▶ 今後の課題

【教育課程について】

- ・教育課程やカリキュラムに表しきれない、
学年間の段差を捉えた教師の関わり、環境構成のありよう
- ・「幼保小架け橋プログラム」へとつなげる意識
- ・身体を通して子どもと関わり合う保育の日常の発信、
及び保護者や地域とのネットワークの構築

【保育の評価の在り方について】

- ・地域の幼稚園等施設や小学校、大学教員を巻き込んだ、評価の体制作りなど

【社会とのつながり】

- ・大学附属の利点を活かした、「子育て支援プログラム」の開発など

▶ 今後の課題

【教育課程について】

- ・教育課程やカリキュラムに表しきれない、
学年間の段差を捉えた教師の関わり、環境構成のありよう
- ・「幼保小架け橋プログラム」へとつなげる意識
- ・身体を通して子どもと関わり合う保育の日常の発信、
及び保護者や地域とのネットワークの構築

【保育の評価の在り方について】

- ・地域の幼稚園等施設や小学校、大学教員を巻き込んだ、
評価の体制作りなど

【社会とのつながり】

- ・大学附属の利点を活かした、
「子育て支援プログラム」の開発など

